

かんきつにおけるドローン防除技術

果樹研究センター

背景及び目的

- ◎省力化が期待できる新たな防除技術として注目
- ◎これまでに、特定のかんきつ主要病害虫で効果を確認



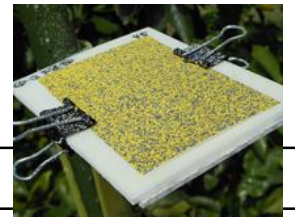
今後、その他の病害虫に対する防除効果や薬害発生についての試験を実施



(事例1) かんきつ黒点病



- 登録薬剤：ジマンダイセン水和剤
- 散布量(濃度)：8 μ ℓ/10a(10倍)
- 飛行方法：往復散布
- 防除効果と薬害の有無
 - ・感水紙による薬液の付着面積率も高く、**手散布と同程度の防除効果**
 - ・薬害の発生はない



感水紙

(事例2) ヤノネカイガラムシ



- 登録薬剤：モベントフロアブル
- 散布量(濃度)：10 μ ℓ/10a(50倍)
- 飛行方法：往復散布
- 防除効果と薬害の有無
 - ・感水紙による薬液の付着面積率も高く、**手散布と同程度の防除効果**
 - ・薬害の発生はない

今後の課題・目標

- ①病害虫や農薬の種類によっては、手散布並の効果を得られている
- ②逆に、散布ムラ等により、その限りでない場合もある
- ③病害虫や農薬別にドローン防除に適した散布技術の確立が必要



かんきつでのドローン防除体系の構築を目指す